

金の星子ども劇場

5

●かたおか・しろう

ごんじよ山の鬼の村

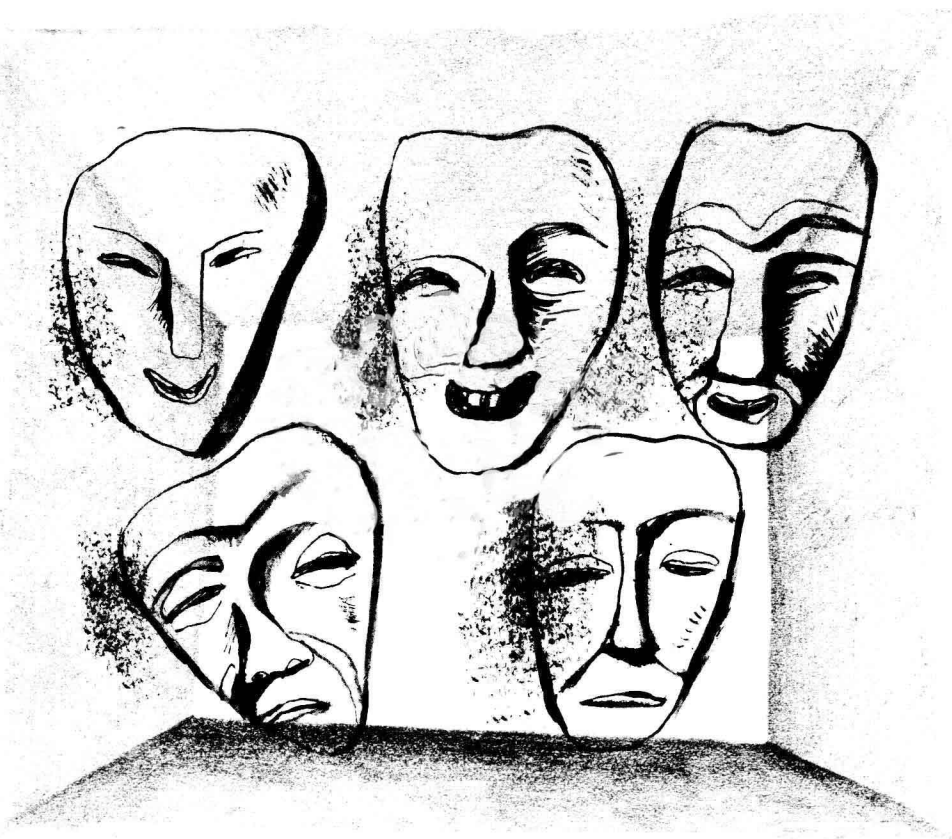


金の星子ども劇場

5

ごじんじょ山の鬼の村

かたおか・しろう



金の星社

ごじんじょ山の鬼の村

金の星子ども劇場 5

初版発行／1976年11月©

第4刷／1980年3月発行

著者／かたおか・しろう

発行所／株式会社 金の星社

〒111 東京都台東区小島1丁目4-3
電話／東京03-861-1861 (代表)
振替／東京0-64678

印刷／(有)協栄印刷

製本／協和製本(株)

乱丁落丁本は、ご面倒ですが小社営業部宛ご送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

912 かたおか・しろう

ごじんじょ山の鬼の村

金の星社 1980

235 P 22cm (金の星子ども劇場 5)

基本カード記載例

8374-047051-1406

●上演する際は作者または小社編集部にご連絡下さい●

ごじんじよ山の鬼の村

かたおか・しろう

金の星社



ごじんじよ山の鬼おにの村

もくじ



牛鬼退治 おしよにんたいじ

117

人と作品について／しかた・しん

216

演出のためのノート

229

■ そうてい／かみやしん
■ さし絵／小林与志
■ 装置図／石倉欣二

■ 作者紹介

かたおか・しろう

一九二八年、大阪に生まれる。大阪工専卒業。教職生活を経て、現在は、劇団2月に所属。「牛鬼退治」で日本児童演劇協会賞など受賞。主な作品に「天満のとらやん」「大阪城の虎」（斎田喬戯曲賞受賞）「はだかになった殿さん」「大枝の鬼」など。

現住所—大阪府八尾市山本町南八—三五

●二幕十三場

ごじんじよ山の鬼おにの村

上演時間・二時間



とき むかしむかし

ひと

モンジュウ（足なえの男の子）

キリ（モンジュウの姉）

タケ（カラクリの上手な男の子^{じょうず}）

ヤス（男の子）

ヒサ（女の子）

ジンゴロベエ（ヒサの父）

ダイサク（村の長老）

トメ兄い

ツネおじ

サエおば

カネばば

さむらい 1

さむらい 2

片目のさむらい

その他、村人、さむらいなど大勢



「ごじんじょ山の鬼の村」の装置図

プロローグ

舞台^{ぶたい}両^{りやう}わきに太^ふい杉^{すぎ}の木^きの立^た木^ぎがあり、そこが行^{あん}燈^{どん}仕^じかけになつていて各場毎^{かくばうまい}に字^じが浮^うかび出^でる。

音楽^{おんがく}と共に「ごじんじよ山の鬼^{おに}の村^{むら}」つづけて「ごねんじよ村^{むら}は面^{めん}作りで有名^{ゆうめい}と
いうこと」と出^でる。

きびしいつづみの一打^{いちだち}ち。

紗幕^{しやまく}の中に太鼓^{たいこ}を打^うつ村人^{むらじん}が浮^うかぶ。村人^{むらじん}の顔^{かほ}には面^{めん}がつけられている。太鼓^{たいこ}は
どろどろと、はげしいものではない。以下^{いげ}プロローグの間^{のま}、太鼓^{たいこ}は打ちつづけら
れるが、いくつかの太鼓^{たいこ}に村人^{むらじん}たちは次々^{つぎつぎ}と入れかわりながら、さまざまなボー
ズを見せる。面^{めん}もさまざまな表情^{へうしやう}ながら、すべて優^{やさ}しいほほえみ。低い合唱^{がっしやう}が念
仏^{ぶつ}のように流^{なが}れる。

合唱

ごねんじよ　ごねんじよ

じいさまたちの面^{めん}を彫^はり

ばあさまたちの面を彫^はり

ごねんじよまいらしよ

ごねんじよ ごねんじよ

ごねんじよ ごねんじよ

じいさまたちの面かぶり

ばあさまたちの面かぶり

踊^{おど}りまいらしよ

ごねんじよ ごねんじよ

客席前にヒサがスポットに浮^うかぶ。

ヒ

サ

むかし、むかし、ごねんじよ山のふもとに、ごねんじよ村^{むら}つう村^{むら}がありました。

この村はあずまの殿^{との}さんつう殿^{との}さんの領地^{りやうち}だったげが、村の人々は、そらあこの
上ない働きものばかりでなあ。

それからもう一つ、この村の人々は先祖^{せんぞ}のことをよううやもうて、毎年、盆^{ぼん}と
正月にや、みんななくなったじいさまやばあさまの顔^{めん}のお面^{めん}をかぶり太鼓を打っ

て供養くようをするつうめずらしい習なわしがあつた。だもんで、村の人は、みんな面作りの仕事が上手なもんだつたべや。

のみの刻きむ音がコーン！　カーン！　とひびく。舞台方々に次々と村人の彫はつた面が浮かんで消える。やがてひとときわ高いのみの音で、太鼓たいこ打ちの音、照明とにも落ち、上手かみてに足なえのモンジュウの姿すがたが浮かぶ。槌つちをふりおろし、のみの刻きむ音が鋭くさえてひびく。

ヒ サ

なかでもこのモンジュウの彫はる面めんは、そらあいまにも生きて語りかけそうなくれえ見事なものだつた。ただ、かわいそうなことにやモンジュウは小わせえころのけががもとでな、立って歩けねえ足なえの身の上だつたんだや。

合唱

モンジュウは　面めんを彫はる

おっ母あや村の衆しゅうの

だれにも負けない

心の面を　彫はる

モンジュウは一心に面を彫る。のみの音ひびく。つづみの一打ち。面を持ち上げる。やがて消える。

ヒ

サ

モンジュウより一つ年下で、タケつう男の子がいただ。

下手にタケの姿が浮かぶ。道具を使って水車のもけいなどを動かしている。

ヒ

サ

水車あ作ったり、はね橋、考えたりする村大工のお父うの血いひいてか、小せえころからいろんなカラクリ道具さ作るんがうめえもんだった。足なえのモンジュウの乗る手押車もこのタケが作ってやったんだもんな。年に一度の面競べの日が近づいただ。モンジュウみてえに生きうつしの面は彫れねえタケだったがよ……。

タケが面をもって立つ。

タケの歌

あいつの面は そっくり

だけど おれは負けない

動かすぞ！

しゃべらずぞ！

おれの作った面は！

つづみの一打ち。タケの姿消える。

はじめの合唱再び。

舞台いっぱいに面、面、が次々と幻想的に浮かぶ。

ヒ
サ

こうして、今年も面作り村一番をえらぶ面競べの日がやってきただ。

音楽高まり、暗転。

1

やがて舞台明るくなる。ごねんじよ山の頂上。遠くに杉の群生が見える。村人たちが太鼓を中央に踊り終わったあとらしく、面をつけているもの、面をはずしながらくつろぐもの、さまざま。

ダイ
サク

(カネに) どうだや、カネばあ、久しぶりにじいさまに会えてうれしかろう。

カ ネ (自分の面をうち眺め) ほんに、何べん見ても、死んだじいさまが生き返って話

しかけるみてえじゃ。

サ エ (のり出してきて) それも、たしかモンジュウが彫ったんじやったなあ。

カ ネ ああ、おらの腕じゃ上手にや彫れんでよ。

ト メ そらあ、あいつならたしかなもんじゃ!

ヒ サ (うれしそうに) このごろは、みんな自分で彫らんで、モンジュウにたのみよるな。

タ ケ (離れていたが) そうよ! みんなだらしがねえよ!

一同、タケの抱えている包みに気がつく。

ト メ (タケに) ほう! ならおめえ……!

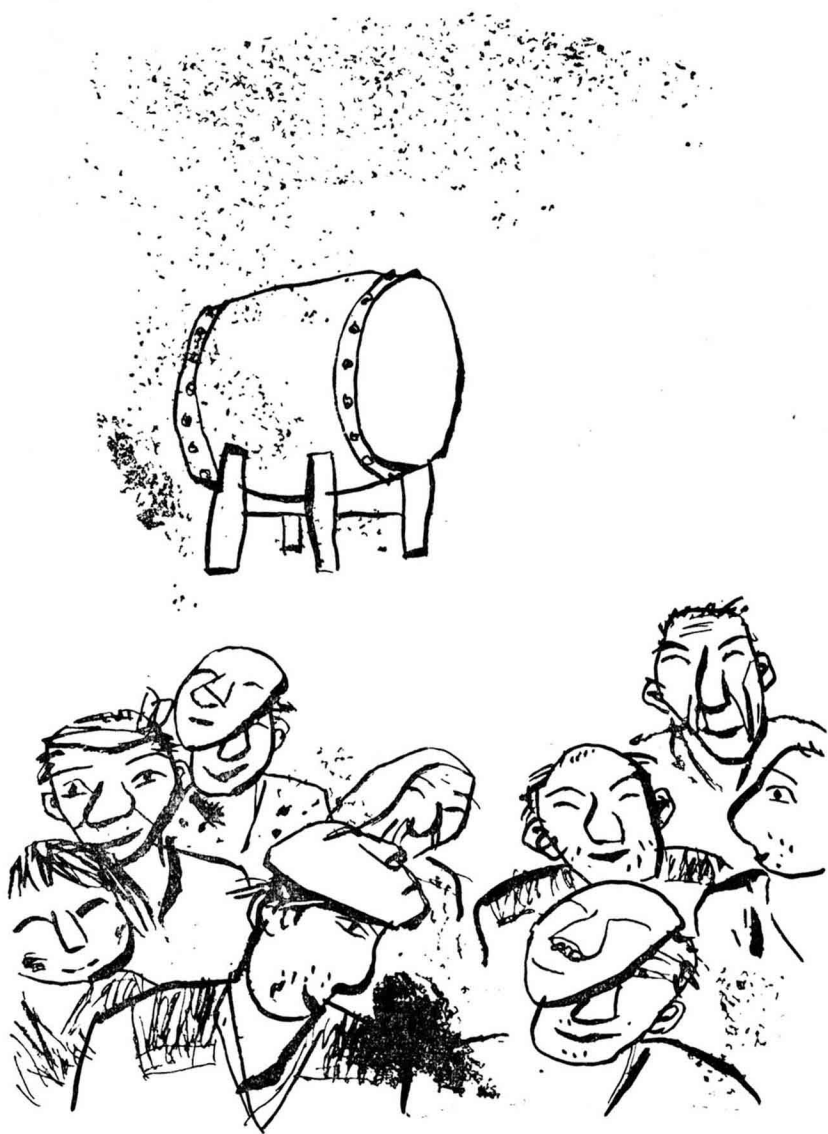
タ ケ (胸をはって) ああ、おら自分で作ってきたとも! (包みを持ち上げる)

ダイサク ほほう、タケやったな。死んだお父うの面か?

タ ケ ああ! 見てくれや! (包みをあげようとする)

ジンゴロベエ こらこら、そうあわてて見せんでええ。後でいっせえにくらべあうだ。

タ ケ うん。(不満そうに包み直す)



ダイサク

うむ。(見まわしてから、みんなに) もう四半刻^{しはんこく}もすりや村の衆^{しやう}も出そろうで、そ
うすりや始めようかいのう。

みんな

ああ、そうすべえ。

タケ

(ジングロベエとダイサクに) 後で、よう見てくれな!

ジングロベエ

ああ。(うなずき返し) おめえのお父^{ちち}うがお城^{しろ}で死んでから、もう……。

タケ

二年じや。

ダイサク

早えもんじやのう。(見まわして) ところで、ほかに彫^はってきたもんは……。

ツネ

(てれて) へへへ、おら、去年おつ死^ちんだばあさまの……。

ヤス

(大仰^{おおやう}に) ひえっー! ツネおじが彫^はったんけえ?! (驚いてみせる)

タケ

(感動して) こらすげえ!!

ツネ

(さらにてれて) そうさ、けんど、おらなんぞなげえことのみも槌^{つち}もにぎってね

えでよ、とてもとても面競^{めんくら}べなんぞ……。

ヤス

へへっ、そら始めっからわかってらえ。

ツネ

あれ、このがきめ!

ヒサ

ヤス、ツネおじは自分の手で一生けんめい彫^はってきたんよ!

カネ

そうじや、大人をからかうもんでねえ。